

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
（分担研究報告書）

全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び  
高質診療データベースの為のNCD長期予後入力システムの構築に関する研究

（研究分担者 原 勲・和歌山県立医科大学・教授）

研究要旨

現在日本泌尿器科学会のがん登録に関しては腎癌、前立腺癌を始め一時的にすべて中断しているような状況となっている。2018年4月からの新専門医制度導入と連動しながら、泌尿器科領域においても現在外科領域で行われているような手術のNCD入力開始が開始されることとなった。さらに腎癌および前立腺癌についてもAMEDからの支援を得られることとなりNCDを利用した臓器がん登録が再開することとなっている。

A. 研究目的

臓器がん登録（腎癌登録）の課題解決のための方策を以下の点から検討する。

- ① 登録システムの改善
- ② 登録データの利活用
- ③ NCDとの連携
- ④ NCD以外の機関との連携
- ⑤ 全国がん登録との連携

B. 研究方法

臓器がん登録の現状を整理し、その現状および他臓器がん登録の試みなども踏まえ、上記①～⑤について検討する。

C. 研究結果

① 登録システムの改善

現在の腎癌登録は日本泌尿器科学会が母体となり、事務局を日本泌尿器科学会事務局、がん登録推進委員会においている。対象施設は1200施設に依頼しているが実際の登録は約330施設（28%）にとどまっている。また泌尿器がん登録として5種類（腎癌、前立腺癌、膀胱癌、腎盂尿管癌、精巣腫瘍）のがんを取り扱っているためそれぞれのがん登録が5年に1度しか行っていない。

腎癌の最終登録年度は2013年となっており以降の泌尿器がん登録はそのシステムの見直しのためいったん中断された。一方で新たな形態としての臓器がん登録に関して学会内で検討が続けられてきた。

② 登録データの利活用

1次解析に関しては学会が解析を行う。2次利用に関しては日本泌尿器科学会会員であれば申請書を提出し認可されればデータを利用することができる。腎癌に関しては2015年に英文論文が出版されている（Int J Urol 2015 22(9)：S1-7）

③ NCDとの連携

2018年4月より新専門医制度が導入されることと連動し、泌尿器科領域においても

現在外科領域で行われているような手術のNCD入力開始が開始されることとなった。すでに入力のためのプラットフォームは完成しており現在入力の実際に関する説明会が全国で開催されている。

さらに腎癌および前立腺癌に関してはAMEDからの支援を得られることとなり手術症例だけではあるが、NCDを利用した臓器がん登録を再開することとなり現在入力のためのプラットフォームを構築中である。

④ NCD以外の機関との連携

NCD以外の機関との連携については現在のところ考えていない。

⑤ 全国がん登録との連携

将来的には臓器がん登録と全国がん登録がリンクしていただくことが学会としても望ましいと考えている。

D. 考察

泌尿器科学会におけるがん登録に関しては5種類（腎癌、前立腺癌、膀胱癌、腎盂尿管癌、精巣腫瘍）のがんを取り扱っているためそれぞれのがん登録が5年に1度しか行っていないかつまた登録が約30%程度の施設しか登録してくれていないため悉皆性と言う観点からも不十分であり他の学会の臓器がん登録と比較するとかなり遅れをとっているといわざるを得ない。このような背景から新しい臓器がん登録の方向性を見つけるため2013年からはいったん中止されていた。

今回新専門医制度の導入に伴い、泌尿器科学会においても2018年4月から外科専門医における手術登録と同様のNCDを利用したシステムを導入することが決定された。さらに腎癌と前立腺癌についてもNCDを利用した臓器がんを再開することが決定されている。今後は新たなシステムを確立し学術的な活用を考えていきたい。

#### E. 結論

泌尿器科領域における臓器がん登録は諸般の事情によりいったん中止されていた。今回新専門医制度の導入に伴い、泌尿器科学会においても2018年4月から手術症例に関しNCDを利用したシステムを導入することが決定された。さらに腎癌と前立腺癌に関してもNCDを利用した臓器がんを再開することが決定されている。